

高齢者の権利擁護を考える集い

高齢者の権利擁護 虐待防止に向けて

一般社団法人 北海道認知症グループホーム協会 会長
有限会社 グッドライフ 代表

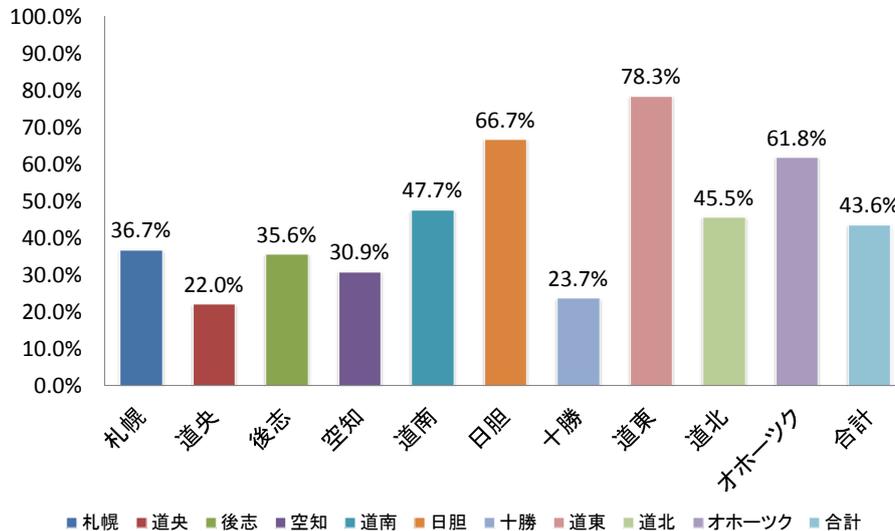
宮 崎 直 人

平成28年度 一般社団法人北海道認知症グループホーム協会 事業所数会員数

ブロック	事業所数	会員数	加入率
札幌	267	98	36.7%
道央	50	11	22.0%
後志	59	21	35.6%
空知	68	21	30.9%
道南	86	41	47.7%
日胆	81	54	66.7%
十勝	76	18	23.7%
道東	60	47	78.3%
道北	145	66	45.5%
オホーツク	68	42	61.8%
合計	960	419	43.6%

平成28年度 一般社団法人北海道認知症グループホーム協会 事業所数会員数

□各ブロックの加入率

北海道認知症グループホーム協会の主な事業

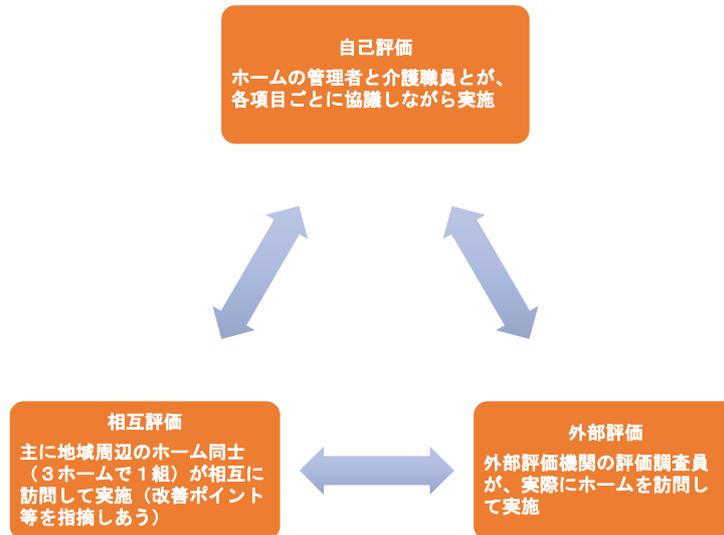
- ・ **総務委員会（事務局）**
協会運営全般
全国グループホーム団体連合会事務局
- ・ **事業委員会**
基礎調査
広報誌
北海道グループホーム実践研究大会担当
- ・ **研修委員会**
自主研修
ブロック事業
認知症介護基礎研修
認知症介護実践者研修
認知症介護実践リーダー研修
看取りの指針（標準）
- ・ **グループホーム相互評価事業推進委員会（モデル事業）**
- ・ **北海道認知症コーディネーター委員会**

北海道認知症グループホーム協会における 権利擁護・虐待防止に向けた取り組み

外部評価と介護サービス情報公表

- グループホーム（家庭的、小規模ゆえの密室性の高さ）
↓
- 事業者の自主的な取り組みとして先行（平成11年）
↓
- 外部評価の義務づけ（平成14年）
↓
- 外部評価と介護サービス情報公表（平成21年）

サービス評価のしくみ



「認知症グループホームにおける相互評価を活用した人材育成」

大久保 幸積 1), 宮崎 直人 2), 石川 秀也 3),
足立 啓 4)

- 1) 社会福祉法人幸清会, 2) (社)北海道認知症グループホーム協会
3) 北海道医療大学, 4) 和歌山大学大学院.

背景

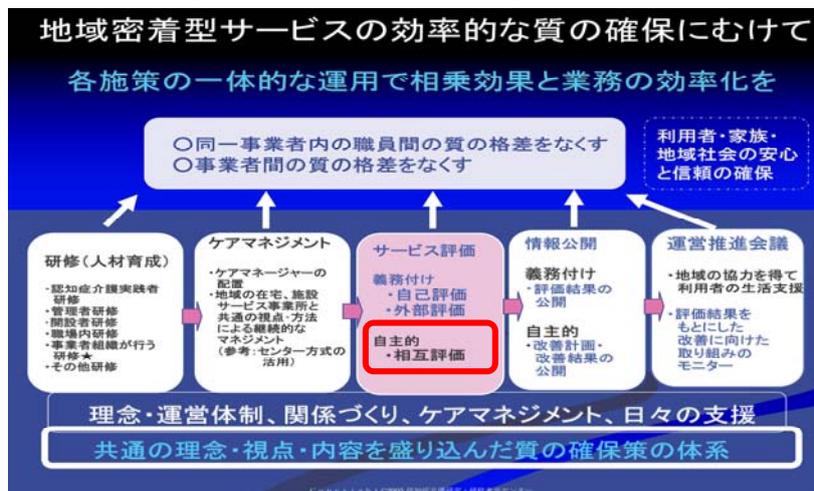
グループホーム（以下、GH）では、サービスの質の確保や向上を図る柱として自己評価及び外部評価が義務化され、結果が公表されているが、その外部評価における指摘に対して、どう改善してよいかわからないなどの課題もある。また一部のGHで虐待事例が報告されるなど、サービスの質の向上としての限界も見られる

認知症グループホーム（認知症対応型共同生活介護）は、2001年度の1,658件から毎年その数は増加し、2014年度には、12,676件となった。その質の向上が喫緊の課題である



背景

「相互評価」はGHの質の向上に効果的な評価の方法として、平成18年の厚生労働省全国地域密着型サービスの外部評価担当者会議資料で重要であると指摘されているにも関わらず実施されていない

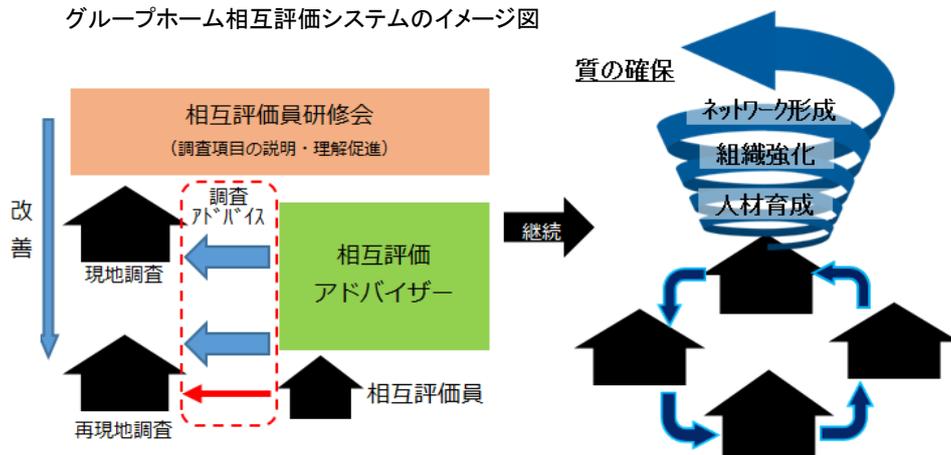


目的

本事例では先行研究に基づき、グループホームに勤務する専門家同士が調査員研修を受け相互に評価し、アドバイス機能を持たせることで、グループホームの人材育成、業務改善組織強化、ネットワーク構築、**高齢者虐待の防止**など、自らのサービスの質の向上を図る相互評価システムを構築することを目的とした。

方法

グループホーム相互評価システムのイメージ図



方法



付録 別添 26 Ⅱケアサービス ●2.ホーム内でのくらしの支援 (1)介護の基本の施行

○入居者の自己決定や希望の表出への支援
職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切に、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)

この項目の **ねらい**
痴呆の進行にともない、判断力や希望を表出する力がしだいに低下していく。うずもれてしまいがちな本人が決める力やその人らしい希望や願いを意図的に引き出す取り組みを日々の中で積極的にやっているかを確認する。

ポイント

- 日常生活の中で一人ひとりの能力に応じて入居者自身が決定する場面を具体的に作っている。
- 職員は入居者と過ごす時間とおして入居者の希望、関心、嗜好を見極め、それをもとに日常の中で本人が選びやすい場面づくりをしている。
- 入居者が言葉では十分に意思表示できない場合であっても、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の希望や好みを把握して支援している。
- 訪問時や電話、家族会等の機会を通じて、家族から本人の嗜好や関心事、意見や希望を聞くことを積極的に行っている。

記述例

- ・外出、買い物等、入居者の希望や意見を中心に予定を組み立てている。
- また、買い物ではご本人が買いたい物を選ぶよう支援している。

方法

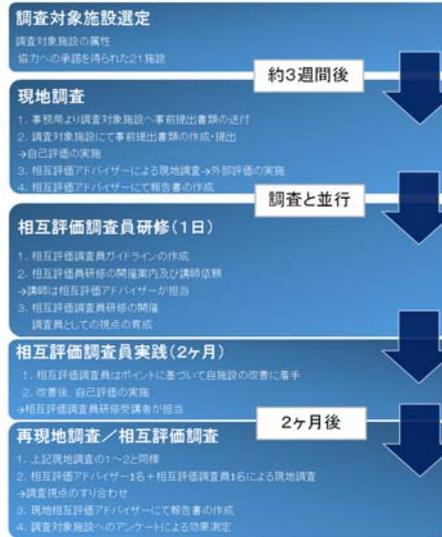
相互評価調査票(535項目)

- 内訳
- 見る (97項目)
 - 聞く1【管理者】 (54項目)
 - 聞く2【職員】 (159項目)
 - 書類 (225項目)

一部抜粋(No. 145-148)

項目	○×	判断基準	ポイント
33 ○入居者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切に、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)	145	書類 記録等から、入居者自身が決定する場面を作っていることが読み取れる	□ 1. 日常生活の中で一人ひとりの能力に応じて入居者自身が決定する場面を具体的に作っている
	146	見る リビング等で過ごす際に、場面づくりをしていることがわかる	□ 2. 職員は入居者と過ごす時間とおして入居者の希望、関心、嗜好を見極め、それをもとに日常の中で本人が選びやすい場面づくりをしている
	147	書類 記録等から、入居者自身が決定する場面を作っていることが読み取れる	□ 3. 入居者が言葉では十分に意思表示できない場合であっても表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の希望や好みを把握して支援している
	148	聞く2 職員はどのような手段で職員が家族から意向を聞いているか説明できる	□ 4. 訪問時や電話、家族会等の機会を通じて、家族から本人の嗜好や関心事、意見や希望を聞くことを積極的に行っている

【調査期間】
 調査員研修会
 2015年7月29日（苫小牧）
 7月31日（札幌）
 現地調査
 2015年7月26日～8月4日
 再現地調査
 2015年9月24日～10月7日



【倫理的配慮】

当研究におけるデータは施設名が特定されないよう処理することを説明し、データを提供いただいた事業所及び団体の会長に、予め承諾を得た。

結果

現地調査結果

N = 21
 平均値456.7点
 (SD ;
 456.7±55.1), 最大
528点
 最小**337点**
 評価点割合85.3%

再現地調査結果

N = 21
 平均値504.8点
 (SD ; 504.8±27.3)
 最大**535点**
 最小**429点**
 評価点割合94.4%

事業所	A		B		C		D		D-B 差異(相互2 回目-1回目)
	自己評価 1回目	現地調査 1回目	自己評価 2回目	再現地調査 2回目	自己評価 2回目	再現地調査 2回目			
A	504	509	525	532	525	532	23		
B	466	472	517	514	517	514	42		
C	496	505	525	529	525	529	24		
D	431	418	503	504	503	504	86		
E	456	469	516	514	516	514	45		
F	312	362	444	490	444	490	128		
G	443	484	515	530	515	530	46		
H	527	492	515	511	515	511	19		
I	515	505	516	490	516	490	-15		
J	505	508	526	527	526	527	19		
K	467	467	464	466	464	466	-1		
L	414	392	433	495	433	495	103		
M	464	406	460	493	460	493	87		
N	443	439	496	493	496	493	54		
O	216	337	378	429	378	429	92		
P	393	419	512	502	512	502	83		
Q	513	528	533	530	533	530	2		
R	406	409	488	530	488	530	121		
S	436	437	464	464	464	464	27		
T	361	521	529	535	529	535	14		
U	486	511	498	522	498	522	11		
平均	441	457	493	505	493	505	48		

結果 (参加事業所アンケート結果：19事業所)

設問Ⅲ. 相互評価に関して、ご自由にご意見をお寄せください。

肯定的 評価項目をOJTに活用したい／他のグループホームへの訪問は刺激や勉強の機会になった／他事業所の工夫や実施方法を聞くことが出来、課題克服までの道筋がつけやすかった／文章で確認することで、改善に向けた取り組みがわかりやすく理解できた／他の事業所に評価する立場で訪問することは、お互いの質を高めることに有効

否定的 準備に時間と精神力を費やす／質を保つための定期的な研修が必要／評価しあう顔ぶれが同じなら慣れ合いになる／質問項目が漠然としていて応えづらい／似たような質問項目があった／評価する際に、意見がいろいろ、反発が予想される／評価員として、アドバイスや適切な意見が述べられるか不安

考察

- ◆2回の調査結果を比較し、評価点が上昇する傾向（21事業所中19事業所）が見られた。

→評価項目の持つ意義を正しく理解することを促す仕組みにより、各事業所で実践につなげるための意欲を引き出すことにつながり、結果として評価点が上昇したと考えられる。

今後の課題

- ・ 調査票改善後（内容の精査及び項目数削減 535項目⇨334項目）の再調査
- ・ システムの精査（調査期間、調査手順、調査人数、事業所の組み合わせ等）
- ・ 調査員の育成
- ・ 事業参加事業所数の拡大⇨40事業所

【今後の予定】

北海道認知症グループホーム協会所属の 21事業所
内訳 日高 3事業所 苫小牧 7事業所 札幌 4事業所
登別 4事業所 道央 3事業所

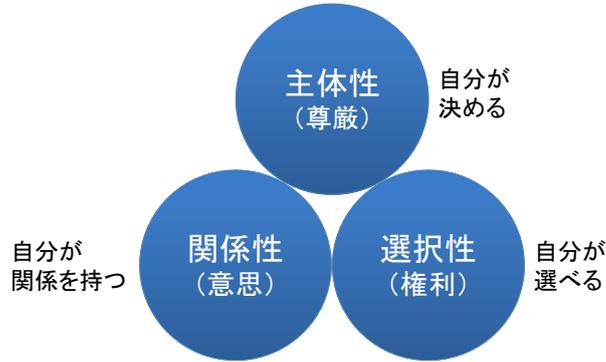


40事業所（平成28年度）



新規事業化
（全道希望事業所）

認知症の状態にある『人』が よりよく『生きる』ため擁護される3つの原則



食 ・ 移動 ・ 排泄 ・ 住 ・ 死



権利擁護とは

彼らの声なき声に耳を傾けること

有難うございました。